いじめの重大事態についての現状と課題

資料2

高知県（国公私立）におけるいじめの重大事態の現状

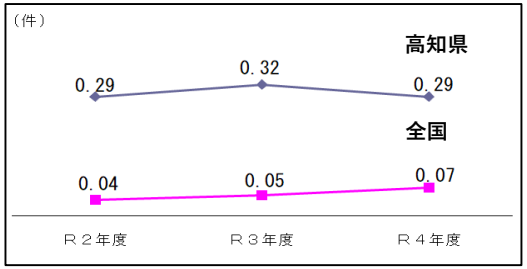
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」文部科学省

いじめの重大事態　発生件数

※件数：重大な被害が生じた疑いがあるとして、調査をした件数。
※（　　）内は、調査の結果、いじめが確認されなかった事案の数。　　（単位：件）

	１号事案※	２号事案※	合計※
R２	１０	１３	**２０(４)**
R３	１２	１０	**２１(０)**
R４	１３	８	**１９(５)**

いじめの重大事態　1,000人あたりの発生件数



※１号：いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

※２号：いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

※合計：１号・２号両方に該当する事案があるため、１号と２号の件数を合わせた件数が合計の件数とはならない。

調査の結果、いじめが確認された事案

内　容	主なケース	課　題
有形力の行使	○故意に暴力等を行使され、心身に影響を被ったケース ○ふざけ合い等が度を越して、けがをしたケース	①　**暴力に訴えることなく、コミュニケーションによる課題解決を図る力の不足**。 →衝動を抑えられなかったり、言葉で自分の気持ちを表現するのが難しいなど、いじめの背景にあるストレス等の要因に着目した対応。
暴言等の行使	○一方的に心ない言葉や威圧的な言葉を投げかけられ、欠席がちとなったケース ○一定の仲間関係の中で、継続的に悪口や嫌がらせを受け、精神的に苦痛を被ったケース	②　事案が発生した際、また欠席が見られ始めた際の**初動体制、初期対応が不十分。** →いじめを認知してからの児童生徒、保護者への組織的対応。 ③　被害児童生徒や周囲の児童生徒が、**被害を訴えにくい**状況がある。 →一定の人間関係で対等な人間関係が損なわれるいじめ等、児童生徒自身も、最初はいじめであるという意識を持ちにくい。
ネットいじめ	○SNS上での誹謗中傷や、グループから外されたケース	④　SNS上のいじめは、**潜在化しやすく、周囲の大人が気づきにくい**。 →SNS上の閉鎖的な環境でのやりとり。

重大事態化の防止に向けた対策

■未然防止教育の推進
- 専門人材や関係機関と連携したいじめ予防教育
- 児童生徒主体のいじめ防止の取組
- 児童生徒理解に関する校内研修の実施
- ストレス対処教育の推進

■トラブルを把握した時点での組織的対応の徹底
- 校内組織（校内支援会・いじめ防止対策組織等）における情報共有体制の見直し

■早期発見の徹底・早期対応の強化
- 「きもちメーター」を活用した早期把握
- 学校生活アンケートの活用の強化（アンケート後の面談等）
- ＳＯＳの出し方教育の推進
- 地域・関係機関と連携した見守り強化

■情報モラル教育の充実
- 非行防止教室や法的側面からの予防教育の実施

いじめに向かうことのない児童生徒の育成